

# 大学生を対象としたスポーツ観戦・地域クラブに関する意識変容の試行調査

渡部 拓人

指導教員 土屋 哲

## 研究背景

近年、若者層のスポーツ観戦・実施率は低下傾向にあり、特に大学進学を機に接点が減少している。スポーツは健康増進だけでなく地域活性化等の社会的機能を有しており、若者の積極的関与は地域社会の持続発展に必要不可欠であると考えられる。生活様式の変化によりスポーツ離れが進む中、教育の場を通じた関心向上と接点創出の取り組みが求められている。

## 研究目的

本研究は大学生を対象に「地域とスポーツ」の講義前後で同じアンケート調査を行い、意識変容を分析する。特にスポーツへの関心、地域貢献の理解、消費行動への影響を明らかにすることで、大学教育の在り方について基礎的知見を得ることを目的とする。

## 研究方法

高知工科大学、高知県立大学、高知大学の3大学 258 人に、講義前後に同一のアンケート調査を実施した。調査項目はスポーツへの関心、観戦行動、地域クラブへの理解・支援意識とし、講義による意識変化を比較分析することで、教育的介入の効果を定量的に検証する。

## 分析結果

講義後、観戦チケットやスタジアム内飲食への支払意欲が向上し、消費意識の高まりが見られた。社会貢献面では、地域活性化や交流促進など身近な項目で肯定的評価が顕著に増加した。一方、環境活動等の間接的な貢献への評価は「普通」に留まる傾向であったが、全体としてスポーツクラブが地域経済を支え、多角的な役割を果たすことへの理解が深化した。講義を通じて、学生のスポーツに対する価値認識が一段階高まったといえる。

## 考察・結論

講義を通じて、学生の支払意欲は大幅に向上し、試算では多額の経済波及効果が見込まれる結果となった。特にスタジアム内飲食やグッズ購入等の裁量的支出が顕著に増加し、クラブの運営実態や社会貢献への理解が深まり、消費が単なるコストから「応援への投資」へと変わった結果といえる。対照的に、交通費等の「不可避な支出」への影響は限定的であった。以上より、講義は学生のロイヤリティを高め、スポーツを核とした新たな消費創出と地域活性化を促進する有効的な手段であると結論付けられる。